



### 山形県木材産業協同組合

〒990-2473 山形市松栄 1-5-41  
TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699  
URL:http://www.mokusankyo.com  
E-mail:yamawood@mokusankyo.com



- 目 1 全国木産振大会で三氏表彰！
- 2 木材利用ポイント申請 100 件超！
- 3 全木連東北支部総会開催！
- 次 4 鶴岡バイオマス協議会設立！
- 5 森林資源循環利用促進事業の実施状況
- 6 第 23 回林業まつり実績報告会
- 7 会議・研修等のお知らせ
- 8 10 月期住宅着工数等

## 1 第 48 回全国木材産業振興大会 (さいたま市) で三氏表彰!

### ○ 林野庁長官感謝状

全木協連 副会長 沖田純夫氏

### ○ 全木連会長表彰

山形県木産協 理事 会田悦陸氏

### ○ 全木協連会長表彰

山形県木産協 理事 下山邦彦氏



(壇上の沖田理事長 左から二人目)

去る、11 月 21 日に、さいたま市を会場に開催された標記大会では、全国から約 800 名の業界人が結集した中、本県木産協の沖田理事長、会田理事、下山理事がそれぞれ、組織運営や地域産業の振興等の功績を事由に、栄えある表彰を受けた。また、本大会には、本県より表彰者を含む 8 名が参加し、受賞を祝うと共に、祝賀会では全国のメンバーとの意見交換等を行うなど有意義な大会となった。この人数は東北各県の中でも最大級の参加人数である。

また、本大会では、林野庁長官や埼玉県知事、国交省木造住宅振興室長などの来賓が、それぞれの立場からの木材産業振興等の内容で挨拶を述べた、

記念シンポジウムでは、「木材を使う街づくり」をテーマに、日本建築士会連合会長の三井所清典氏が「地域の復元力となる木造の住まいと街づくり」の演題で基調講演の後、三名の木造建築物の専門家による意見交換が行われ、木材に対する認識の深さやその取り組みの有効性について感銘を与えた。

大会宣言については、新たな消費税導入に伴う景気反動に対する経済対策の実現、現在実施中の木材利用ポイント事業の成功、公共木造建築物の建設促進、次の時代を見据えた街中の商工業施設の木造化に向けた取り組みを進めること等を全会一致で決議した。

次回の第 49 回大会は、東京会場で実施することになっており、本県からも大勢の組合員がご参加下さる様お願いいたします。

## 2 木材利用ポイント申請 100 件超！

### (1) 申請の状況

申請が思うように出てこない懸念されていたが、本県の申請数は 11 月末現在で 100 件を超え、ようやく本格的に動きだしてきた感じがある。製材品供給業界(木産協)は 99%超の登録であり、施工業界も 600 社超が登録している中で、最終の申請準備を整えているところが多くなっている状況にある。3 回にわたる山形新聞での PR、全国紙への掲載や・テレビでの放映などもあり、県民に浸透しつつあり、施主から施工業者への申し入れも増えているようだ。12 月期はこれまでを上回る申請ペースで進むことを期待している。



(環境展のポイントセミナー)

### (2) やまがた環境展 2013 での PR 状況等

県木材利用ポイント事業推進協議会では、山形新聞社と連携した、ポイント公募事業に応募し、20 万部以上発刊の新聞を活用した PR を実施している他、林業まつりや 10 月 26~27 日の環境展での合法木材等を使った構造躯体の展示や建前餅撒き、「森林から住宅建築」までのバスツアー、ポイントセミナー、アンケート調査等も行い、地道に PR に努めているところである。今後、12 月 7~8 日は山形ビッグウィングでのリフォームフェアや、山形市内の住宅展示場を活用した PR を展開することになっている。

### (3) 課題の克服

県ポイント事務局(木産協)は懸命の PR を実施しているものの、木産協組合員のご協力が無ければ、その効果は半減してしまうわけであり、組合員の御奮闘を期待している。

このため、木材業界や施工業界から出されている次の課題を克服する必要がある。

- ア 取引している施工業者に登録していない方が多い場合、ポイントの説明はやりにくい。
- イ 申請に手数料がかかることから積極的にやりたいと思わない。
- ウ 木材業界へのメリットがないのではないか。
- エ いまから登録できないのか。(施工業界が圧倒的)
- オ 制度の定着に時間がかかることから、次年度に継続した事業にしてもらいたい等。

これらについては、今年度は施工業界等の組織を通じた登録説明会を開催しているわけであり、未登録者にポイント事業の実施を要請するのは無理だが、登録している施工業者と連携して県民にメリットを享受できるように努力する必要があると考えている。

また、申請は難しいものではなく、施主が自ら持ち込んでくる場合もある。この手続きは「住宅利子助成制度」より簡単であり、是非、一度、申請を指導していただきたい。

施主のポイント取得や施工業者の「即時交換」制度は直接的メリットであり、木材業界のメリットは見えにくいといわれているが、この取り組みは木材の良さをもっと知っていたたき将来の地域材や業界の振興のために行っているという原点に立ち返る必要がある。

未登録者の要請に応えようと、様々な場面で再々登録について要望を伝えているが、簡単にはいかない現状にある。また、本事業の 400 億ポイントが万が一達成できない場合の次年度の事業継続についても未確定である。我々の課題は、現状の中で、従来からの山形のウェイト(全国 1/100 程度)を突破して、多くの県民に満足いただくよう裾野を広げることである。

### 3 全木連東北支部総会が上山市で開催される。

11 月 27 日 (水) に、上山市において、標記東北支部総会が開催され、全木連の藤原常務理事のほか、東北各県から木産協等理事長と専務理事が出席した。本県は沖田理事長と阿部副理事長と専務理事、事務主任が参加した。

全木連からは、木材産業に関する情勢についての説明がなされたほか、総会の計画や予算事項については全会一致で承認された。

役員については、新支部長に秋田県木産協の菊地成一理事長が監事は岩手県木産協の石川敏彦専務理事が就任することになった。(2 年任期) 情報交換については以下のとおりである。

#### (1) 木材利用ポイント事業について

##### ア 申請数について

各県伸び悩み気味であり、県民への周知が十分に出来ないことが大きな要因と考えられるとのことであった。最終取りまとめの日付が少し異なるところもあるが、青森県 75 件(25 日)、岩手県 60 件(20 日)、秋田県 60 件(10 月末)、福島県 60 件(11 日)、宮城県 81 件(直近)、山形県 93 件(27 日)となっており、山形の健闘が光った。ただし、これには全国事務局受付分は入っていないので、多少の違いが出てくると思われる。

##### イ 県民への PR 方法について

各県ともに創意工夫を凝らし、説明会やチラシ配布、テレビコマーシャル等を行っているが、新聞社と連携したのは本県のみであり、その結果が人口の少ない本県での健闘に繋がっているとの指摘が多かった。チラシを 1000 部撒くのは容易なことではないが、20 万部以上発刊の地方紙を活用すれば数百倍の効果が期待できると考えている。

事業のスタート時点での、地方紙を活用しない方式に課題があると思われ、その後、本県等からの要請で、地方紙も活用できるようになったが、従来の路線で実施したところが多かったようだ。

また、木産協組合員をはじめとした本県の関係業界の積極的な取り組みの結果でもある。

#### (2) 木質バイオマス発電の状況について

昨年 7 月から施行された、木質バイオマスを活用した電力の買い取り制度により、全国各地に木質バイオマス発電所の設置が計画されている。

本県では、村山市に稼働している木質バイオマス発電所のほか、鶴岡市で栃木県の木材業者と庄内地方の三森林組合が連携しながら、平成 27 年 4 月をメドに発電事業を実施することになっている。発電に必要な木質バイオマスは約 5 万 t/年といわれており、その集荷が大きな課題である。また、国の制度を活用した、素材搬出からチップ生産に至るまでの助成金として 3,000 円/m<sup>3</sup> が想定されており、素材生産業界からの期待は高いものがあつた。しかしながら、発電側(チップ製造側)では、発電所経営の安定のために支援であり、C材の搬出経費として想定されているものでないとしている。このため、森林組合以外の素材生産者は、採算割れする可能性がでてきている。価格交渉はこれから本番となるが、東北各県での状況などについて実態を聞いたところ、福島県が先行しており他県はこれからの状況にあることが分かった。福島県の事例では、燃料チップ製造側は、製紙用チップ価格との関係から素材の単価を設定しているとのことであり、チップ製造費等を除けば 3~4 千円/m<sup>3</sup> が実態とのことであった。福島県ではこれに県環境税から 1,500 円/m<sup>3</sup> 程度の助成を行っているとのことであり、本県でも参考にする必要があると考えている。 以上

## 4 鶴岡バイオマス協議会設立総会

11 月 22 日(金)に、鶴岡市において、栃木県の木材業者等と地域の三森林組合、県森林組合連合会、それに県木産協が参加する標記協議会が設立された。森林組合系だけでは素材集荷に懸念があること、また製材端材チップの受け入れも想定していることから、県木産協が要請されたと考えている。

また、木質バイオマス発電は、需要拡大が思うように進まない中で、木産協の組合員にも期待している方が大勢存在し、組織としてこの取り組みを支援していく姿勢にある。

設立総会には、沖田理事長と専務理事が出席し、価格調整が実現できれば、相当数量を納材することは可能であると表明している。

本協議会では、必要な木質バイオマスに関する集荷調整などについて、四半期に一度程度会議が開催され、そこで各団体等への割振量等が調整されることになる。

助成金は木産協や県森連等の中間団体が配分するのではなく、チップ工場が全て掌握しチップ製造に至る一連の流れの中で使うとされている。

課題はやはり素材等の買い取り価格であり、3,000 円/m<sup>3</sup> の助成金が出るといわれている中で、価格があまりに低く抑えられた場合は、木産協組合員は納材が厳しくなることが予想される。また、C材などの搬出は非常に効率が悪く、森林整備の助成金を豊富に確保できる森林組合と、ほとんど助成金無しで森林整備や伐採を行い森林所有者に代金を支払う素材生産業者とでは、経営の基盤が異なるわけでありそのところへの配慮も必要ははずである。

木材価格全体が上昇傾向にある中で、価格の設定等については結束を固めて対応する必要があると考えている。初回の調整会議は 12 月 19 日に実施される予定である。

一方、木産協には、木質燃料チップを製造している組合員もおり、素材生産の組合員とは逆の影響を受けることになる。これらについても、県当局の指導・支援受けながら対処する必要があると考えている。

## 5 森林資源循環利用促進事業の実施状況について

本年度から木産協も合板用材の搬出支援事業に取り組んでおり、8 社が参加し、2000m<sup>3</sup> の枠を既に完納している。この取り組みについては、県の要請から直接合板工場との協定を行わずに、合板用材納材枠を獲得している木産協組合員を経由するという複雑な経路を指示され、折角の助成金が、流通経費がかかり増しすることから、助成金の効果が半減されるという事態となっている。これらの指示について、平成 26 年度は是非改善していただく必要がある。

また、従来から行っている、木質バイオマスエネルギー用の搬出支援事業については、最上町ウェルネスタウン向けの熱エネルギー用燃料チップ工場と寒河江市にある木質ペレット製造工場に対する、間伐材等の搬出支援として実施しているもので、素材生産事業体 4 社が参加しており、順調に推移している。12 月中には事業枠は完納となる見込みである。

県内の木質バイオマス関係の取引価格はこれらによって決められてきた感じがあり、鶴岡市内のバイオマス発電工場の木質燃料用素材の引き取り価格も同水準で価格設定されることが妥当であると考えている。

## 6 林業まつり実績報告会の結果について

11 月 29 日(金)、ホテルメトロポリタン山形を会場に標記報告会が開催され、関係団体・機関から 32 名が出席し、事業報告、収支決算などについて協議した。

木産協が事務局を担っている県内でも有数規模のイベントであり、木材の PR の場として絶好の機会となるものである。

今回は、2 日目の雨の影響で客足は昨年には及ばないが、出展数や協賛広告数等が伸びたこと、木材利用ポイント PR の構造躯体・大型木製遊具の展示やバイクトライアル等の新しい取り組みが加わったこと、各出展者が木工クラフト等様々な体験を組み入れたこと、アンケートの結果等が報告された。その他、PR・広報の仕方や、若者を対象とした内容を多く組み入れること、安全管理を徹底する事等が提案され、最後に平成 26 年度も現行の体制で実施することが決議された。

実施日については、全国育樹際との兼ね合いがあり、県当局と調整することになった。

## 7 会議、研修等のお知らせ

### 1 木材産業関連研修会の開催(全木連主催)

激動する木材を巡る状況に適切に対応するため、業界の経営・技術レベルアップを目指し、著名講師による研修会を開催する。

- (1) 期 日 平成 26 年 1 月中旬
- (2) 内 容 木材を巡る状況の変化、木材利用ポイント事業、今後求められる木材の品質・人工乾燥材の必要性及び地域を網羅した組織的な取り組み、新しい需要開拓等
- (3) その他 無料、山形市内ホテルで実施予定。木産協だより 1 月号で詳細を掲載します。

### 2 地域森林経営コーディネーター育成研修会(第 6 回・最終回)

森林資源の充実に伴う地域材のコーディネート等について、将来地域の中心となるメンバーの育成研修会。最終回は、地域の森林資源をコーディネートするにあたり心すべきことや全国的なコーディネート事例等の講演の他、全体研修・個別研修による成果報告会を行う。

- (1) 期 日 平成 26 年 2 月 18 日(火)午後 1 時半～
- (2) 会 場 ホテルキャッスル(予定・山形市内)
- (3) 講 師 澁澤寿一氏(NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長)
- (4) 内 容 成果報告会(研修生各自報告)(コーディネーター澁澤寿一氏)  
講演会 演題(仮題)「木材を活用する地域振興の方向性について」
- (5) その他 どなたでも参加できます。(木産協 1 月号で申し込み方法等掲載します)

### 3 「丸大ハム」のお歳暮セットの斡旋

組合員にパンフレットを同封しております。上質でおいしいと評判のお歳暮セットです。また、価格もお手ごろとなるようお願いしてあります。是非、一セットをお試し下さい。専務理事の大隅も試しましたが大変好評でした。なお、組合員でなくとも利用できます。

## 8 10月期住宅着工状況

平成25年10月期の県内新設住宅着工戸数は、対前年同月比123.4%の584戸となりました。利用関係別では384戸で151.8%、貸家158戸で112.9%、分譲住宅40戸の133.3%となっており好調を持続しています。

1 県内新設住宅着工戸数(25年10月)

(単位:戸)

年月	総数	利用関係別				資金別		木造住宅		木造内訳		
		持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	民間	その他	戸数	木造率	在来軸組	プレハブ	2×4
21年	4,616	2,894	1,251	106	365	4,340	276	3,737	81.0%	2,901	157	679
22年	4,125	2,533	1,140	40	412	3,777	348	3,319	80.5%	2,479	112	728
23年	4,336	3,001	1,100	8	227	3,903	333	3,615	83.4%	2,778	121	716
24年	4,716	3,086	1,273	61	296	4,468	248	3,917	83.1%	2,940	156	821
24.5月	329	260	55	2	12	320	9	281	85.4%	235	15	31
6月	470	369	68	2	31	455	15	423	90.0%	348	13	62
7月	560	332	188	25	15	495	65	400	71.4%	303	11	86
8月	451	338	88	0	25	437	14	408	90.5%	333	17	58
9月	458	316	122	1	19	424	34	395	86.2%	285	18	92
10月	423	253	140	0	30	387	36	346	81.8%	279	7	60
11月	453	272	153	1	27	442	11	373	82.3%	261	13	99
12月	406	235	138	1	32	393	13	344	84.7%	216	21	107
25.1月	276	127	89	31	29	238	38	180	65.2%	132	6	42
2月	265	153	92	0	20	246	19	211	79.6%	142	7	62
3月	335	268	32	2	33	326	9	309	92.2%	241	11	57
4月	559	376	151	0	32	494	65	453	81.0%	349	13	91
5月	532	372	128	2	30	513	19	439	82.5%	357	17	65
6月	556	353	171	4	28	540	16	456	82.0%	356	15	85
7月	606	408	146	3	49	593	13	501	82.7%	389	11	101
8月	449	336	60	4	49	439	10	416	92.7%	332	10	74
9月	598	408	152	0	38	568	30	537	89.8%	418	19	100
10月	584	384	158	2	40	577	7	507	86.8%	388	16	103
対前月比	97.7%	94.1%	103.9%	-	105.3%	101.6%	23.3%	94.4%	-	92.8%	84.2%	103.0%
対前年同月比	138.1%	151.8%	112.9%	-	133.3%	149.1%	19.4%	146.5%	-	139.1%	228.6%	171.7%
24.1~当月計	3,857	2,579	982	59	237	3,633	224	3,200	83.0%	2,463	122	615
25.1~当月計	4,760	3,185	1,179	48	348	4,534	226	4,009	84.2%	3,104	125	780
対累計前年比	123.4%	123.5%	120.1%	81.4%	146.8%	124.8%	100.9%	125.3%	-	126.0%	102.5%	126.8%

2 地域別新設住宅着工戸数(25年10月)

(単位:戸)

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計	市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
県計	584	4,760	138.1%	123.4%	4,009	大蔵村	0	5	-	166.7%	5
山形市	218	1,366	139.7%	106.8%	1,006	鮭川村	1	6	-	120.0%	5
上山市	5	91	50.0%	113.8%	80	戸沢村	0	6	0.0%	200.0%	5
天童市	49	408	175.0%	148.9%	340	最上地域	26	167	260.0%	139.2%	155
山辺町	15	59	750.0%	131.1%	56	米沢市	34	444	113.3%	159.1%	331
中山町	2	35	66.7%	140.0%	33	南陽市	14	130	107.7%	87.8%	126
東南村山	289	1,959	145.2%	115.0%	1,515	高島町	14	85	350.0%	144.1%	85
寒河江市	11	222	78.6%	157.4%	205	川西町	5	29	125.0%	103.6%	28
河北町	13	91	86.7%	171.7%	81	東南置賜	67	688	131.4%	133.9%	570
西川町	2	4	-	100.0%	4	長井市	10	153	71.4%	147.1%	153
朝日町	1	8	100.0%	80.0%	8	小国町	0	12	0.0%	200.0%	10
大江町	4	22	200.0%	84.6%	20	白鷹町	7	44	233.3%	112.8%	43
西村山郡	31	347	96.9%	148.3%	318	飯豊町	3	25	-	208.3%	25
村山市	7	72	77.8%	100.0%	69	西置賜	20	234	100.0%	145.3%	231
東根市	38	309	237.5%	119.8%	289	置賜地域	87	922	122.5%	136.6%	801
尾花沢市	7	37	175.0%	74.0%	36	鶴岡市	55	412	177.4%	143.6%	373
大石田町	0	11	0.0%	64.7%	11	三川町	4	41	66.7%	178.3%	33
北村山	52	429	179.3%	108.0%	405	庄内町	7	58	63.6%	103.6%	53
村山地域	372	2,735	143.1%	117.2%	2,238	田川	66	511	137.5%	139.6%	459
新庄市	16	98	200.0%	111.4%	89	酒田市	31	388	110.7%	111.5%	320
金山町	2	11	-	157.1%	11	遊佐町	2	37	33.3%	264.3%	36
最上町	4	22	400%	366.7%	22	飽海	33	425	97.1%	117.4%	356
舟形町	2	11	-	366.7%	11	庄内地域	99	936	120.7%	128.6%	815
真室川町	1	8	-	160.0%	7						

注:累計は平成25年1月~